

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 8 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04472

研究課題名(和文) 障がい者きょうだいの援助ニーズと期待するサービスの変化—日中台援助モデルの構築—

研究課題名(英文) Changes in Needs and Expectations of Support for Siblings of People with Disabilities - A comparative study between Japan, China and Taiwan

研究代表者

吉 げん 洪 (JI, Yuanhong)

立命館大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：60288694

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：きょうだいの援助ニーズと期待するサービスが発達についてインタビュー調査によると、親役割代行を重視する；障がい児の長所や成長を認める；他者の視線に敏感である；結婚相手の選択時には障がい児を受け入れてくれることが前提であることは日中台において共通して見られた。また、独自に作成した「きょうだいの援助ニーズ尺度」、「きょうだい期待するサービス尺度」を用いて行った調査によると、「親役割代行」という援助ニーズは日中台において共通して見られた。さらに、家族への期待より周囲への期待が高いという結果に基づき、援助者は福祉やコミュニティなどの資源を取り入れ、協同エンパワーメントを行っていく必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

臨床心理学分野において、障がい児・者自身、そして保護者をメインとする家族支援に関する研究は増えつつあるが、障がいのある同胞を持つきょうだいの支援に関する研究はまだ少ないのが現状である。本研究の結果によって、援助者は障がい児・者の家族(保護者ときょうだい)と協力関係を作り上げ、協同エンパワーメント(collaborative empowerment)を達成し、障がい児・者の支援について新たな知見をもたらすという点で、独創的かつ社会的に意義ある研究であると言える。また、日本、台湾、中国の比較を通して、東アジアの障がい児・者、きょうだいを含める家族支援について提言できることは大きな貢献であろう。

研究成果の概要(英文)：According to the interview survey from Kyoto University on the development of siblings' assistance needs and service expectations, it was found that siblings in Japan, China, and Taiwan share the following characteristics: they place importance in parentification; they recognize the strengths and growth of children with disabilities; they are sensitive to external perceptions; and when choosing a marriage partner, they expect that the partner can accept children with disabilities.

In addition, according to a survey conducted using the "Siblings' Assistance Needs Scale" and "Siblings' Expected Services Scale," the need of "parentification" were found to be common among the Japanese, Chinese, and Taiwanese. Furthermore, based on the result that expectation of external help is higher than the expectation of the family, it is suggested that donors need to incorporate resources such as welfare and community and conduct collaborative empowerment.

研究分野：臨床心理学

キーワード：きょうだい 援助ニーズ 比較研究 臨床心理学

1. 研究開始当初の背景

近年、障がい児・者の保護者にとどまらず家族全体への支援が必要であると考えられるようになり、障がいのある同胞を持つきょうだい(以下「きょうだい」と表記する)も支援する対象としている。しかし、きょうだい達になぜ精神的負担が生じるのか、同胞に対して抱く感情などのメカニズムに関する実証的な研究が見られないし、ストレスに晒されているきょうだいをサポートしていくことが強調されるが、具体的なサポートのあり方が提言されていない。また、きょうだいへの支援には発達段階に応じたアプローチが必要であり、きょうだいがお互いに思いを尊重しながら自由に語り合う心理社会的な支援、同胞の障がいを理解し具体的な対処を知る心理教育的な支援を行うことが重要であろうと考えられる。また、障がい児・者、およびその家族の支援について、日本、中国、台湾の政府と専門家たちは長年にわたってその理論の構築と実践に力を注いできた。

2. 研究の目的

これまできょうだいに関する研究は、残念ながら事例のナラティブや、横断式(cross-sectional)の調査研究にとどまっている。きょうだいの援助ニーズと期待するサービスは発達段階や、ライフイベントなどによって異なる。特に、親の離婚、災害、事故などがある場合には、障がいのある子どもだけではなく健康なきょうだいにも特別な支援が必要である。

本研究は、日本、中国と台湾の比較研究を通して、障がいのある同胞を持つきょうだいの援助ニーズと期待するサービスが発達による変化を明らかにし、東アジア文化に合った臨床心理学的援助モデルを構築することである。まず、インタビュー調査を通して日中台のきょうだいの語りから人生の節目や、ライフイベントなどによる援助ニーズ、期待するサービスの変化を明らかにする。そして、独自に「きょうだい援助ニーズと期待サービス尺度」を作成してアンケート調査を行う。援助ニーズと期待するサービスを発達段階に沿って順番をつけ、変化のパターンを見出していく。最後にこれらの結果に基づいて、東アジア文化に合ったきょうだい援助モデルについて検討する。

3. 研究の方法

調査方法は、半構造化インタビュー調査とアンケート調査の2つの方法を用いた。平成29年度には、障がいのある同胞を持つきょうだいを対象に半構造化インタビューを行い、彼らの語りから人生の節目や、ライフイベントなどに合わせて援助ニーズ、および期待するサービスの変化を明らかにし、そして文化との関連について検討した。平成30年度には、独自に「障がいのある同胞を持つきょうだい援助ニーズと期待サービス尺度」を作成し、アンケート調査を行った。援助ニーズと期待するサービスを発達に沿って順番をつけ、変化のパターンを見出していった。令和元年と令和2年においては、過去2年間の研究成果をまとめ、障がいのある同胞を持つきょうだいの発達に添った、そして日本・台湾・中国の文化に合った臨床心理学的援助モデルについて検討した。

4. 研究成果

(1)きょうだいの援助ニーズと期待するサービスの変化 日中台比較

方法

日本人中学生・高校生各1名、大学生2名、大学院生2名、社会人4名の合計10名、及び中国人の中学生2名、大学生4名、社会人10名の合計16名、そして中国台湾の就学する前の児童5名、小学生5名、中学生・高校生4名、大学生3名、社会人3名、合計20名のきょうだいを対象として半構造化面接を行った。

具体的には、視覚的な刺激としてライフラインメソッド(LIM: Life-line Method)を用いた。LIMは時間の経過が伴うインタビューの心情の変化を捉えるのに有効であるため、インタビューにA4画用紙に描いてもらってから、それを一緒に眺め、回想を通して以下のことを中心に語らせた:

- 1)障がいのある同胞を持つきょうだいとして、これまでどんな大切な経験および課題がありましたか？
- 2)そのとき、どんな援助が必要でしたか？
- 3)そのとき、どんな人から援助をもらいましたか？
- 4)その援助に満足しましたか？
- 5)どんな援助がよかったと思いましたか？
- 6)いま振り返ってみて、どんな人から、そしてどんな援助をしてほしかったですか？

倫理的配慮

本研究は立命館大学における、人を対象とする研究倫理審査委員会によって承認された。調査協力者に対し、研究の紹介及び面接への協力の同意を書面と口頭で行った。また、いつでも中断できることについても説明した。

結果

半構造化面接をGTA(Grounded Theory Approach: GTA)に従って分析を行った。以下の結果が得られた。日中台の結果を比較したところ、以下の点が明らかになった。1)個人の自己実現より、「親役割の代行(parentification)」に重きを置いていることが共通しているが、台湾のきょうだいには「子どもとしての役割の喪失に気付いた」という語りが見られた。2)台湾のきょうだいには「障がい児ばかりではなく、自分にも関わってほしい」「自分に構ってくれる親がほしい」という親への不満および期待が見られたのに対して、中国のきょう代いは「兄/姉だからこそ、弟/妹の世話をするのは当たり前だ」と自ら障がい児の世話をしようとするところが異なっている。しかし、障がい児の長所や成長を認めて愛情を注いでいることは共通して見られた。3)他者の視線に敏感になること、結婚相手の選択時には「障がい児を受け入れてくれる」ことが重要な前提であることも共通している。しかし、日本と中国に比べ、台湾のきょう代いはより多くの自助グループやNPOなどの活動に参加し、サポートを得ていることが明らかになった。5)現在の社会制度のさらなる改善・充実への期待は共通してみられた。以上の結果に加え、日本人きょうだいから同胞である障がい児を奇異な目でみる「社会」から守る役割を果たそうとしており、彼らは最初は社会からの突き刺さる視線により傷ついていたが、障がい児への共感から、福祉関係の仕事に勤めるようになるまでに至り、障がい児の受容への変化が見られた。

(2)成人期きょうだいの援助ニーズに関する日中台比較研究

(1)のインタビュー調査の結果に基づいて独自に作成した「きょうだいの援助ニーズ尺度」、「きょうだいが期待するサービス尺度」を用いて、日本、中国、および台湾のきょうだいを対象にアンケート調査を行った。日本人きょうだい95名、中国人きょうだい96名、および台湾人きょうだい486名の有効データを収集した。日本と中国の調査は2019年11月～2020年2月に、台湾の調査は2019年1月～3月において行った。

「きょうだいの援助ニーズ尺度」の因子構造

主因子法、バリマックス回転による因子分析を行った結果、因子1「家庭雰囲気」、因子2「心理的苦痛」、因子3「親役割代行」、因子4「障がい児との関係」、因子5「周囲のサポート」、因子6「障がい児の受容」、因子7「心理の健康」、因子8「家族のサポート」という8因子構造(累積寄与率52.9%)が得られた。そして、クロンバックの係数の値は.89であった。

「きょうだいが期待するサービス尺度」の因子構造

主因子法、バリマックス回転による因子分析を行った結果、因子1「家族への期待」、因子2「周囲への期待」、因子3「親子関係への期待」という3因子構造(累積寄与率61.2%)が得られた。そして、クロンバックの係数の値は.92であった。

きょうだいの援助ニーズの日中台比較

日中台の共通点としては、因子3「親役割代行」の得点が共に高く、因子4「障がい児との関係」の得点が共に低いことが見られた。そして相違点としては、因子5「周囲のサポート」と因子6「障がい児の受容」において、日本と中国の得点が高いが、台湾の得点が低いことが明らかになった($p<.001$)。

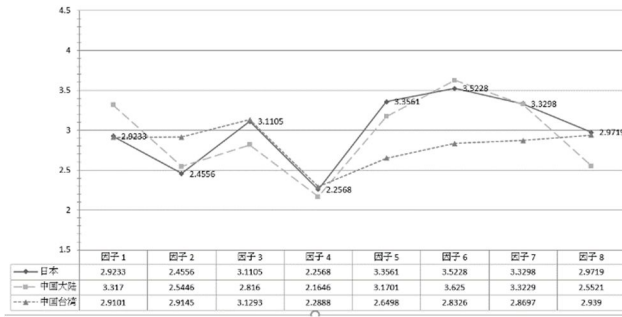


Fig1 日中台のきょうだい援助ニーズ

きょうだいが期待するサービスの日中台比較

日中台の共通点としては、因子1「家族への期待」の得点が共に低いことが見られた。そして相違点としては、因子2「周囲への期待」において、日本と中国が高く、台湾が低いことが明らかになった ($p<.001$)。

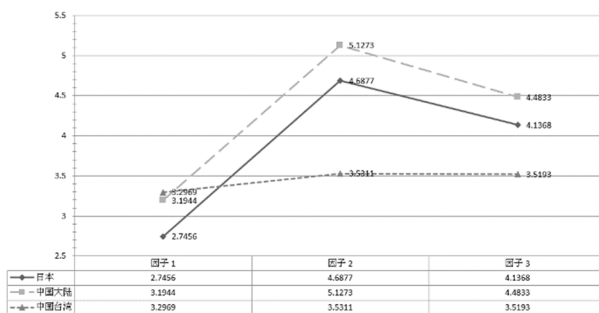


Fig2 日中台のきょうだいが期待するサービス(成人期)

日中台で共通して見られたのは「親役割代行」という援助ニーズである。つまり、親の期待に沿って障がい児の世話に協力するなど、きょうだいが早めに自律する傾向がある。また、日中台において、家族への期待より周囲への期待が高いという結果に基づき、援助者は福祉やコミュニティなどの資源を取り入れ、協同エンパワーメント(collaborative empowerment) を行っていく必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 吉げん洪
2. 発表標題 吉げん洪
3. 学会等名 日本心理臨床学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuanhong JI
2. 発表標題 Changes in Needs and Expectations of Support for Siblings of People with Disabilities - A comparative study between Japan and Taiwan
3. 学会等名 The 3rd Japan-US Science Forum in Boston (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉げん洪
2. 発表標題 日本障害児・者きょうだいの援助ニーズと期待するサービスの変化
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuanghong JI, Wei WANG
2. 発表標題 Changes in the Needs and Expectations of Supports for Siblings of People having Disabilities in Japan -In accordance to the developmental stage-
3. 学会等名 American Psychological Association 2018 Convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 頼念華、張亦瑾、吉げん洪
2. 発表標題 台湾障害児・者きょうだいの援助ニーズと期待するサービスの変化 - 発達段階に合わせて -
3. 学会等名 日本心理臨床学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉げん洪・頼念華
2. 発表標題 成人期きょうだいの援助ニーズに関する日中台比較研究
3. 学会等名 日本心理臨床学会第39回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関